

9/19 朝日

# 「数の力」怒りと嘆き

## 安保法制反対座り込み

「残念」「でも、あきらめない」……。安全保障関連法案に反対する座り込み行動（JR福井駅東口広場）は18日、最終5日目を迎えた。参加者60人の間に政府と国会への怒りが広がった。今後も反対の意思表示を続けると誓った。

福井大学特命教授の山根



5日間にわたって安保法案反対の座り込みを続けた参加者＝福井市のJR福井駅前

清志さん(67)は、これまでの国会論議を振り返った。

①安倍政権には論理というものが無い②理詰めで迫られると答えられないから、話をそらすか同じことを繰り返す③だから議論が成立しない④だから数の力で押し通す――。その上で山根さんは「この間違いを私たちが直していかう」と訴えた。

この日の多くの参加者が、政府・与党による「数の力で押し通す」手法への怒りと嘆きを訴えた。採決強行の気配に「残念な結果ですが、私たちは行動をやめてはいけません」といった決意も何度も語られた。

飛び入り参加した福井市の徳岡幹夫さん(62)は「民主主義のルールを無視した政府に怒りを抑えられず、一個人として行動をしなればどこに来ました」と話した。「個人の力は小さいけれど、法案に賛成した議員の名前は忘れないでいたい」とも語った。

(下地毅)